

第4回 日・ベトナム共同ワークショップをハノイで開催

ベトナム交通省科学技術研究所及び国総研は、地球温暖化をはじめとする環境問題に対応するため、2010年5月に道路及び交通分野等における国際研究協力を実施していくことに合意し、これに基づき、共同ワークショップを開催してきました。

(これまでの経緯)

2010.5 研究連携合意並びに中堅若手の参画等重点活動事項の確認

2010.9 第1回 WS (ハノイ) 技術水準等相互状況と技術研究ニーズ把握、DUC 副大臣表敬

2011.2 第2回 WS (ホーチミン等) 把握ニーズに基づく研究連携ロードマップの作成と合意
DUC 副大臣との情報交換会

2011.7 第3回 WS (ハノイ) ロードマップの目標達成のための詳細議論と課題特定

(総合セッション)

一連の共同ワークショップに続く形で、第4回共同ワークショップはハノイで開催されました。総論セッションにおいては、ベトナム側から交通関係実験センター構想の紹介があり、日本側からは、環境や安全等の付加価値を評価できる性能評価システムのベトナムへの導入等について提案しました。またトピックスとして、日本側から、東日本大震災に関して、第3回の被災概要と基本政策の紹介に続き、具体的な対応状況等を説明しました。

(技術セッション)

その後の個別セッションでは、各研究ロードマップ等にしたいが、以下の研究連携テーマについて、実務担当者による相互の発表や意見交換が行われました。

- ・都市内道路騒音調査と対策立案
- ・騒音軽減と雨天時の高速走行安全性能に優れた排水型舗装技術スペック開発
- ・今後多くの建設が予想される長大橋と重交通にも対応可能な現地材を用いた橋面舗装技術スペック開発
- ・今後高速道路建設等に必要となるトンネル建設と保全技術の習得と普及 等



(ベトナム交通省：デュック副大臣との会合)

(ワークショップの様子)

本ワークショップのまとめとして、両研究所は上記に関連する5つの研究ロードマップに、新たに耐久性評価のための暴露試験及び防錆対策ガイドライン作成を追加すること、また、環境、耐久性等、日本の優れたインフラ技術を評価しうる性能評価システムのベトナムへの導入に向けた日本側の技術研究支援等、研究連携に関する活動を進めていくことを確認しました。

また、共同ワークショップ後のベトナム交通省デュック副大臣との会議においても、性能評価の重要性とともに、中堅若手研究者のナレッジネットワークの強化による国の発展基盤形成という今後の連携戦略を確認することができました。

今後とも、国総研は関係独立行政法人や民間団体の参加と協力を得ながら、ベトナム交通省ITSTとの研究連携を進め、わが国の競争力確保に向けた取り組みを実施していく予定です。

(国際研究推進室)